

・雨でも休まず、205回、206回、

## 「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

- ・定例活動1：1月13日(第二土曜日)：小原本陣の森・技術向上・担い手育成の森
  - \* 1月は第二土曜。雪で閉ざされて入れない場合は、「若柳嵐山の森」に向かう。参加費400円。弁当持参。
- ・定例活動2：1月21日(第三日曜日)：若柳嵐山の森・里山交流・多様な森活動
  - 午前：森に捧げる活動(森入り口の社、鈴木様に感謝の挨拶・軽作業)
  - 午後：新年会(例年の通り、五本松)
  - 参加費：男4000円、女3500円、学生2000円、子供無料
- ・初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合、ベテランは各自、森へ。
- ・服装：汚れても良い服装、着替え、長袖・長ズボン・滑らない足元
- ・持参：なるべく皮製軍手、万一の怪我に備えて保険証、食器(碗・箸)、飲料水
- \* 注意事項：危険管理・救急体制：森林ボランティア保険他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。
- ・運営会総会：1月28日(第四日曜)JR相模湖駅ソバ、桂北公民館、運営内容の見直し。

## 10年目の森林NPO

1998年4月に初めて森の異常に気づき6ヶ月の準備を経て、11月21日に相模湖町の「与瀬の森」で第1回活動を始めた。雨でも休まず・・・とこの10年、台風の日にも森にやって来た。参加者2~3人の日もあって、自分一人の日が3回続いたら活動を止めようと思っていたが、杞憂に終わって今は、参加希望が多すぎて体制が追いつかなくなっている。対策として、内部体制の再編成や相模川流域沿いに、当会とは独立したグループづくり(大月・森づくりの会、緑のダム北鎌倉、緑のダム湘南の森)をしている。新たに「緑のダム津久井の森」計画が進んでいる。

FSC 効果のせい各地からの問い合わせも続いているが、県と契約した「ボランティア基金」、  
「セブン・イレブンみどりの基金」による協働事業「1、荒廃森林の保全・再生、2、持続性ある森林経営の方法創出」に関係の無いアプローチは全部、断っている。

本年4月から20年計画・神奈川県「水源環境の保全・再生政策」が発効する。県との協働事業は、この政策を支えるために始めたことであるから、森林活動を楽しみながらも知恵を絞って取り組んでいる。また、県境を接する相模原市や上野原市、山梨県などとも一緒にやろうじゃないかとの話が持ち上がっている。「10年目の森林NPO」は、枝葉の議論や評論・抽象論は無しにして、「実効性ある実践活動に絞って」森の中に分け入っていく。理論は、後から付いてくる。

## 活動報告1：小原本陣の森：担い手育成・技術向上の森：12月 2日（第一土曜日）

「材の移動のためのシューターが、林道までやってきた！」

報告 山本晶子

肌寒くなった12月の曇り空に22人が集まった。

林道から山の中に入る直線階段を覆ってしまう、凄く長いシューターを滑り降りる材の音は「シュー」と「ヒュー」とも違う、何とも言えない音です。だんだん音が近づいてきて来れば「お！、降りてきてる、降りてきてる」、上から順調に落下中の合図。結果、18本の材の移動。安全面でも、通る人に注意を呼びかける案内板を設置しました。

枝打ち班も大活躍ですよ。50本もの枝打ちの成果を挙げました。高所で自分の体を支えながら、切り口はデベソにならない様、鋸を動かす。安全ベルトは必須です。

「貝沢溪谷に架ける橋」班（特に班編成はなかったのですがね）は、橋に見合う材の選定、伐り出しを行いました。もちろん、シューターで降りてきた材の中から選び出され、12月第2週には

橋が出来上がり（実は、この橋は仮橋、大月名勝猿橋があり、藤野町に相模ダム湖底に沈んだ小猿橋があるから、来年計画で相模湖貝沢に「孫猿橋」を架ける。数百年後に21世紀初頭、地元の人と何んでも「緑のダム」とか言う市民団体が架けたそうな・・・と言う歴史づくりでもあります：石村記）。付近の甲州古道復活道普請は、2月定例活動日に地元の人々と協働事業とか。

「地元の方々と緑のダム北相模が架ける橋」、何か素敵！、でもクサ過ぎ???。出来上がりは、HP ([midorinodam.jp](http://midorinodam.jp)) の伝言板をご覧ください。作業風景と出来上がった橋が見られますよ。

炊事班は、あれもこれもと作り過ぎちゃった。ので、一人当たり2杯以上のノルマを課し、押し売りして完食。愛情を米過ぎちゃったからなあ（炊事班談）

終礼で1月の活動日は第2週土曜日（13日）に変更。ご注意あれ！。

## 活動報告2：若柳嵐山の森：里山交流・多様な森づくり：12月17日（第3日曜日）

・常連参加者34名＋常連参加学校18名（日大・麻布大・望星高校）& 初参加8名、  
・初参加団体・WWF Japan＋エクセンチュア（世界最大のIT企業らしい）、相模原市環境



学生連合・Forest・Nova 隊員

年末12月の曇り・寒空の下に100名近く森に来てくれる人々・仲間にどのようにして感謝すればよいのか。こうして沢山の人々が来て、皆んなで寄ってたかって知恵を貸してくれて、地主の鈴木様が、何の注文も付けず森を貸して下さるからこそ、相模川流域の神奈川県や山梨県、相模原市で当会は、一人前面して物が言えている。午前は、通常に森林整備、午後は森の感謝祭(石村記)。

報告1：今年最後の活動日は・・・、

(投稿：伊藤小夜子)



林床整理：みるみる整理されてゆく

日大、学生連合NOVA, 望星高校他、若者が増え活気感じる！。

12月この日の活動は、森林整備班による林床整理と間伐材処理。スッキリした森の中で「動く黄葉」と思いきや黄色ヘルメットで作業する姿。一層、森が清々しくなった。

・ファール佐々木さんの「カブト

虫牧場：仮称」の枠設置は、森の入り口付近の栗林の中に8名の逞しき男性の助っ人で無事、設置。カブト虫幼虫の寝床になる落葉集めと運搬は、望星高校女子と日大生がお手伝い。

・また、モマ工房では、「望星の森・案内板」を男子生徒とご指導の松尾オジサン？！たちが仲睦ましく楽しげに彫っていました。

・望星の森は枝打ち作業ですが、ベテラン富田さんが高校生に教えていました。高校生が木にしがみついて、左手で枝打ちするのは難しいけど、上手くやってたよ。

・そして、「初参加者・緑のダム体験学校」では、齋藤学校長と林教授が二組に分かれて森の中を案内しながら活動の意味、問題点、森の基礎知識を話すなど濃い中身！。

午後、Xmasソング流れる綿雪装飾・電飾の樹の周りで「森の感謝祭・忘年会」。

イシムラ式大風呂敷焼、エコ流ダッチオープン、ワンダフル輝！焼きソバ(ジャガイモ入り)、エトセトラ・エトセトラ。飲み放題食い放題とは何と豪華な



二人のサンタにビックリ仰天！

森の中から二人のサンタさんが大きな贈り物の袋を抱えて現れたのにはビックリ仰天、ビンゴゲーム付のプレゼント。童心に帰っているいろいろな交流でした。夕方まで暖かい心に触れ合う12月の一日でした。

報告2 タイトル：いいな、いいな。

(投稿：ワンダフル輝！こと・白石晴輝)



豪勢な、飲み放題・食べ放題

ファーブル佐々木はいいな。ほんとうに好きなんだね。やりたいな俺も、木樹での木工づくり。ぼくも焼きそば、焼いてる場合じゃないぞ・・・と思ったが。でも、すずこママの今までの苦労と喜びが分かったちゃったもん。森から帰ってきた、皆んなの美味しい笑顔を見て嬉しかったね。毎月のお汁づくり準備の大変さを改めて想いました。

帰り駅前カドヤにきた学生若者4人、頼もしいぞ。若い知恵と力、ドンドン活動に注入せよ！森仲間の健康を祈って、かんぱーい！、1年間、いろいろお世話になりました。

報告3 堆肥箱を作っています。

(投稿：学校長こと・齋藤憲弘)

大勢の方のご支援ありがとうございました。おかげさまで全て計画どおりに進みました。桂北小学校にもお届けし、担当の板倉先生を「森の感謝祭」にお呼びすることも出来ました。



昆虫博士：ファーブル佐々木さん

ファーブル佐々木さんの、本当の狙いは「野生のかぶとむし」のようです。更にその「嵐山のカブトムシ」が作り出す「堆肥」は、美しい花を咲かせてくれます。これも嵐山の商品？。まだまだ、落ち葉が沢山あります。これを集めて、踏んで・・・。「カブトムシ」は来年でなくその次の年です。あしからず！。

.....  
 今年の森林活動の一年、無事故・無違反、全ての皆さん、ありがとうございました。 事務局

**小原宿・古道沿道活性化検討会:12月2日(土)**

相模原市が相模湖町域内の小原宿地域、甲州古道沿いをテーマに地域活性化に力を入れてくれている。これに新たに小原本陣から嵐山入り口までが「東海自然遊歩道」に指定されたから若柳地区も対象になっている。

ここをどのような地域にするか「小原本陣の森」活動日当日、小原集会場で開かれた。今期中に計画のアウトラインを作って平成20年度から「新相模原市観光振興計画」となって実行に移される。この検討会で当会活動と「NPO 緑のダム北相模」が地域財産と記録に記載されていたが、光栄なことだと感謝している。(おだてに弱いから頑張るぞ!)

当会の管理する「小原本陣の森、若柳嵐山の森」もこの計画の対象地域となっておりアイデア提出を求められている。1月の「運営会総会」で森仲間の提案を聞くので考えておいて欲しい。採用されれば当然、相模原市との協働事業になる。

**貝沢・孫猿橋・仮橋:町内会の了解取り付け:12月10日(日)**

9日、「NPCシミズ改め、NPCフォレスト・グリーン準備室」から、「貝沢・仮橋、ほぼ完成」と言う報告を受けた。早速、翌日10日、地元の中里さんと誘い合っ出て出来具合を見に行った。拘りの清水さんらしく美しい仕上げになっていた。中里さんが「感動した、感動した」と繰り返していた。

仮橋と言うのは、大月の名勝「猿橋」があつて、藤野に「小猿橋」があるなら相模湖に「孫猿橋」があつても良いじゃないかと言う意味。取り敢えず仮橋を架けておいて来期、本格的に設計して架ける。「そんなの無かった」と言う勿れ。猿橋も小猿橋も元々は無かった。

数百年後、21世紀初頭「横道町内会とNPO 緑のダムとか言う変わり者が架けた」そんなで良い。「面白い事、一緒にやろうよ」と町内会と若葉会(青年会)に持ちかけたら「良いねー」となって次の相模湖区域・古道活動日「2月24日」にやる。雨でも休まない。

**(予告:貝沢・一里塚:来期計画)**

貝沢・仮橋を渡ったら500mばかりダラダラ上り坂・本物古道が残っている。2月24日は町内会と道普請をする。その先、パッと視界が広がって遠景に富士、中景に丹沢山塊、近景下景に相模湖が見下ろせる絶景だ。江戸時代、ここに江戸から16番目の貝沢一里塚があつた。来期予算でそれを復元する。今、地権者の神奈川県企業庁と掛け合っている。相手は「水源環境保全・再生」での好敵手・話の分かる平松局長だから問題なし。

**都市と森林をつなぐ:木をつかうこと、森を守ること:12月14日(木)**

活動の当初9年前、損保ジャパン環境財団からから3年間、ご支援を頂いた。そこの北村専

務から今年春、経団連・自然保護協議会の真中顧問をご紹介頂いた。経団連は国内認証：S G E Cを支援しており真中顧問から相模川沿いにS G E Cの森は出来ないかと相談を受けた。上流の山梨県（森林環境部）、大月森林組合、北都留森林組合との交流のあることから両者に声を掛けたら「取り組みましょう」と言うことになった。結果を以下、報告する。

14日、経団連・自然保護協議会(真中顧問)、全林協(全国林業改良普及協会：野田調査役)、山梨富士東部事務所(小俣所長)、大月森林組合(組合長・天野専務)、北都留森林組合(組合長・長田専務)北都留森林組合事務所にご案内した。ご案内の背景として以前から、神奈川県内各地の市長さん(相模原・平塚・茅ヶ崎・逗子など)から「県産材・流域材が入手できないから市の計画事業が進まない。何とかならないか」と言われていた。F S Cの森林管理者になって信用が付いて、真中顧問からお話を頂いて機が熟したと判断しから話し合いを持つことにした。

この日の話し合いは順調で、「都市と森をつなぐ：木を使うことは、森をまもること」だと合意して両組合は、国内認証S G E Cに取り組むことを決定した。次回は、県境を接する木材生産地・上野原市と木材消費地・相模原市をつなぐ。その下話も進んでいる。ここが繋がれば相模原流域から山梨・神奈川全県に広がって行く。そして、神奈川から全国に広がる。

## 活動報告：緑のダム北鎌倉の1年

(投稿：代表：兼松まゆみ)

今年の11月で、東慶寺に関わって丸2年になりますが、東慶寺竹林はかなり明るくなり松ヶ丘文庫からの視界も広がり、関係者の方々から大変喜ばれています。竹に隠れた桜、楓も見事に目を楽しませてくれ、お寺さんにおかれても筍が増え、来た鎌倉の森仲間の努力も花開いた1年になりました。唯、残念で堪らないには一番熱心だったご夫婦が、ご病気でいらしてないことでも、めげてもらえません。11月の「匠の市」に彼等の作品は無かったけれど大工さんの協力もあり、とても幅広い竹使い発信基地を内外に披露でき支援して頂きました。

緑のダムの会員になって下さった桜井先生がいらして「ここまで里山の有効利用をアピールして頂くとはいわなかった」と率先して売り子をしてくださいました。

先日、友好団体の「北鎌倉湧水ネットワーク」、「北鎌倉町づくり協議会」、「関谷竹炭の会」「緑絹ダム北相模」、「緑のダム北鎌倉」合同の忘年会をしました。一つの目的・里山再生で繋がっていると想いを実感でき森林の大きな力に支えられていることを感謝しています。

## 活動アンケート第8回：間伐材の活用

F S Cは、問題があれば解決することを求めている。208件のアンケートに対して38項目、58件の回答が得られた。昨年11月から今年10月までに全般的なこと(組織・資金・情報公開・社会的責任)について解答してきた。今回は間伐材の活用についての質問に答える。回答に対する疑問・意見・反論、忌憚のない・異論を提供されたい。(この回答欄は、認証機関 SGS の観察条件になっている)

質 問：間伐材の管理、活用が上手く行っていない。「森にお金を返す」本来の目的のためには積極的に商品開発、市場開発流通など、先ず都市への流れを作り出すビジネスモデルをつくるのが先決である。(正会員)

回答2：先月号の続きです。

当会は森林NPO（非営利活動法人）であって利益を目的とする営利法人（会社・企業）ではありません。それに関わらず「森にお金を返す仕組みづくり」をしているのは、「木を使うこと、森を守ること」だと主張して、国産材が売れなくなったことを何とかして解決したいと思うからです。これは、利益を目的としないNPO活動にしか出来ない試みと思います。

取り組み始めの頃、「森林にお金を返す仕組みづくり」をすると「林業専門家や行政、林業学者が出来ないことを素人の森林NPOが出来ない訳がない」と笑われました。5年前、「FSCに取得に挑戦する」と言った時と同じです。行政からは、「FSC取得とは、出来もしない大法螺を吹く緑のダムは、信用できない」と言われたものです。

「森のお金を返すシステムづくり」に取り組み始めて2年目に入りますが、1年目は153万円の森林特定事業収入、2年目の今年は230万円程度の収入の見込みです。3年目、来期は、全収入の35%程度、約350万円を目標にしています。2年、木を流通させて損にならないことが実証できましたので3年目は、木材生産県・山梨県と、木材消費県・神奈川県を相模川流域で繋いで「木を使うこと、森をまもること：森にお金を返すシステムづくり」を本格的に着手します。この試みに山梨県、神奈川県、その他林業関係の人々が参集し始めています。

これは、業界の常識・既成組織、学者理論や林業行政の既成観念に囚われない森林NPOの発想・行動が、思いがけない新しいシステムを創出するのではないかと。まだ、ないか？、という段階ですが、どうもそんなことになりそうな状況です。

\* 先月号で当会が伐り出した杉が森林所有者さんに立米当たり13,000円、払えましたと報告しましたが、最終的には17,000円、お払いすることが出来ました。通常は行政から補助金がもらえるのですが、補助金無しにです。未だ、何んでだろうと思っています。

木を使うこと 森を守ること：11

文責 住まい工房 なお(株)

「僕、大工さんになる」と横浜のお施主様の子供がさげびました。それほど職人さんはカッコいい。本当に力強さ、男を感じます。正確に刻まれた木材が一本一本、クレーンで吊り上げられ土台にはまって行きます。昔はこの作業は職人さんの手で行われたものです。土台は上棟の2日前には基礎の上に敷きこみます。その時、土台パッキンを基礎の上に置き、その上に土台を敷きます。基礎と土台を開けることで通気をとります。土台の下側には無農薬の白蟻駆除剤を塗布します。その土台に柱が立ち梁・桁など横の木材が柱の上に並べられ、更に2階の柱が立っていきます。

未だぐらっている梁の上に立つ職人さん、身軽な物腰で梁の上から木槌でたたき梁を柱にシ

ッカリ落としこんで行きます。大丈夫と思っても危険を感じる作業です。平均台の上で作業しているのと同じ、でも足元は未だぐらついている状態です。いつ見ても「かっこいい」本当にそう思います。この姿を見て先ほどの「僕、大工さんになる宣言」です。体を張って仕事をしている姿は美しいです。素人は遠巻きに見ているしか出来ない緊張感が伝わってきます。説明はいりません。現場の緊張感で職人の美しさを感じた経験は将来の生き方にも影響を与えたでしょう。

彼は森の体験・製材所見学・職人さんの仕事を見てきました。これから様々な職種の人が彼の住まいづくりに関わります。一つ・一つ出来上がっていく様をどのように感じてもらえるかとても楽しみです。森の木が住まいになる、何時までも忘れないでほしい体験です。

後記 今年を振り返り、来期を予測する。

事務局 石村

昨年10月にFSC認証の森になって今年3月までは、殆ど何も起こらずであった。4月に入ってから俄然、外部からの問い合わせが増えた。取材も続いた。宮崎・佐賀・福岡・岡山・岐阜・静岡・北海道、殆どがパネラーとして来て欲しいであったが、宮崎諸塚村だけには行った。農大聴講生時、先進林産地と聞いていたからだ。得る事もあったが、材流通に苦しんでおり先進の意味が分からなかった。

9月30日、石村が「したい放題・勝手」との糾弾を受けて「緊急運営会議」なるものを開いたが、そこはそれ、同じ釜の飯を食うもの同士、「1年目のFSC総括、活動運営の見直し」と言う穏やかでも真剣な討議がなされた。3ヶ月経過した今もMLで熱心で冷静な意見交換がなされている。

神奈川県とは「ボランティア基金21」による森林協働事業の関係から緊密な関係にあるが、川崎NFを契機に山梨県とも、急速に接近した。相模湖町が相模原市と合併して、緑比率が一挙に58%になった相模原市は、森と湖の相模湖町の活性化に力を入れている。そこまで言われる自信は皆無だが、当会は「地域財産」といわれ、相模原市の森林政策推進のお手伝いをするようになった。不思議だ。

4月から、SGEC（国内認証）を支援する経団連・自然保護協議会とも交流が始まって「相模川流域をつなぐ認証の森づくり：都市と森林をつなぐ持続的な森林経営の途を探る試み」に繋がっている。今年6月、「緑のダムFSC材」を出荷して地主さんには、立米17000円が払えた。来期は倍量を試みる。当会の森林保全・再生活動は、更に加速が付くだろう。内部体制の整備が急がれる。

活動のモットー : 急がず、楽しく、無理せず、休まず。ポチポチと・・・  
そして、沢山の参加で森はよくなる。

名 称 : さがみ湖・森づくりの会 : NPO法人緑のダム北相模・森林部会

事務局 : 154-0023 東京都 世田谷区 若林3-35-9

発行人 : 石村 黄仁 T&F 03-3411-1636

H P : <http://midorinogam.jp>

E-mail : [moritomo@rk9.so-net.ne.jp](mailto:moritomo@rk9.so-net.ne.jp)

協働団体 : 神奈川県(企画部、環境農政部、県北地域県政総合センター森林部)、

ご支援団体 : WWF ジャパン、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、東急コミュニティ